



豊東小だより

平成28年11月11日臨時号
練馬区立豊玉東小学校
校長 吉羽 哲夫

平成28年度学力調査結果

本校6年が4月に実施しました全国の学力調査、5年が7月に実施しました東京都の学力調査の結果についてお知らせいたします。

1 6年生「全国学力・学習状況調査(全国)」...国語・算数 4月19日実施

【国語】

平均正答率(%)

分類	区分	国語 A (主として知識)			国語 B (主として活用)		
		本校	都	全国	本校	都	全国
領域	話すこと・聞くこと	79.5	81.6	72.9	53.0	52.7	51.1
	書くこと	84.1	81.6	79.2	62.1	55.2	53.4
	読むこと	81.8	79.9	72.8	79.5	70.7	69.3
	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	72.0	71.2	71.1			
観点	国語への関心・意欲・態度				63.1	55.3	54.7
	話す・聞く能力	79.5	81.6	79.2	53.0	52.7	51.1
	書く能力	84.1	77.2	72.8	62.1	55.2	53.4
	読む能力	81.8	79.9	78.5	79.5	70.7	69.3
	言語についての知識・理解・技能	72.0	71.2	71.1			
問題形式	選択式	83.3	79.7	77.2	67.4	62.8	59.9
	短答式	70.2	70.0	70.0			
	記述式				63.1	55.3	54.7
全体		75.5	73.8	72.9	65.7	59.8	57.8

【算数】

平均正答率(%)

分類	区分	算数 A (主として知識)			算数 B (主として活用)		
		本校	都	全国	本校	都	全国
領域	数と計算	78.6	81.2	80.5	48.9	48.0	47.2
	量と測定	79.5	78.5	77.0	49.1	44.5	43.7
	図形	80.7	82.8	78.8	41.7	38.2	36.3
	数量関係	78.8	73.0	68.5	53.0	46.1	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度						
	数学的な考え方				47.0	42.8	40.9
	数量や図形についての表現・処理	83.2	83.5	82.5	65.9	58.8	53.3
	数量や図形についての知識・理解	76.9	77.6	75.4	75.0	72.6	69.5
問題形式	選択式	77.7	78.7	75.8	65.0	58.7	56.7
	短答式	79.3	79.8	78.5	77.3	70.3	66.4
	記述式				29.5	28.7	26.2
全体		78.8	79.4	77.6	54.2	49.8	47.2

- ・ 都の平均正答率より高いものには太字で (1本)を、5%以上高いものには (2本)を付けています。
- ・ 都の平均正答率より低いものには太字で (1本)を、5%以上低いものには (2本)を付けています。

2 5年生「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）」

7月7日実施...国語・社会・算数・理科

【観点別の調査結果（正答率 %）】

教科	A 教科の内容									
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能（国語：書く）		知識・理解		読む	
	本校	都	本校	都	本校	都	本校	都	本校	都
国語	93.5	90.6	92.5	82.3	46.8	54.0	82.9	78.0	81.7	72.9
社会	91.9	91.3	66.5	58.2	85.8	81.0	84.5	69.9		
算数	87.1	82.6	65.3	54.8	71.0	64.9	69.0	72.6		
理科	98.4	94.8	80.6	74.2	63.7	48.4	65.7	56.4		

教科	B 読み解く力に関する内容					
	取り出す力		読み取る力		解決する力	
	本校	都	本校	都	本校	都
国語	83.9	78.2	77.4	74.1	51.6	33.1
社会	87.1	80.0	83.9	65.5	77.4	69.7
算数	74.2	70.6	35.5	25.0	51.6	33.3
理科	77.4	66.1	71.0	60.5	69.4	51.4

・都の平均正答率より高いものには太字で（1本）を、5%以上高いものには（2本）を付けています。

・都の平均正答率より低いものには太字で（1本）を、5%以上低いものには（2本）を付けています。

全体	A：教科の内容		B：読み解く力	
教科	本校	都	本校	都
国語	81.4	76.5	71.0	61.8
社会	80.5	72.9	82.8	71.7
算数	70.6	67.7	53.8	42.9
理科	72.7	63.5	72.6	59.2

6年生の学力調査では、昨年同様、おおむね全体正答率も東京都及び全国の平均正答率よりも上回りました。5年生の学力調査でも、おおむね全体正答率は都の平均正答率を上回りました。両学年とも、算数科の一部領域において、都の平均正答率を下回りました。

国語

<分析>

6年生の学力調査では、A・Bともに全国・都の平均正答率を上回りました。Bにおいては、どの観点においても全国・都の平均正答率を大きく上回りました。6年生の学力調査のAにおいては、「漢字を正しく読むこと」はほとんどの児童が正答していますが、「話すこと・聞くこと」においては、都の平均正答率を下回りました。しかし、「ローマ字で書く、読む」設問、「質問の意図を捉える」設問、「グラフを基に、分かったことを的確に書く」設問では、都の正答率を下回りました。

5年生の学力調査では、都の平均正答率を上回りました。A 思考・判断・表現と、B 解決する力に大きく上回りました。

<考察・改善>

「話すこと・聞くこと」では、目的に応じて質問する内容を工夫しながら整理することに課題があるので、相手の意図を考えながら聞き、話の展開に沿って質問する指導の充実を図ります。毎週の全校朝会でスピーチする児童の話の内容を聞き取る練習

をしていきます。インタビューメモ・スピーチメモの作成、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを観点として、相手の話を注意深く聞く力を育てていきます。また、総合的な学習の時間におけるパソコンを活用した調べ学習において、ローマ字を繰り返し確認する時間を設けていきます。国語の時間のみならず、他教科においても質問の意図を捉えたり、グラフを基に分かったことを的確に書いたりする機会を取り入れ、指導していきます。

算数

<分析>

6年生の学力調査のAは、都の平均正答率を下回りましたが、Bの領域全てにおいて全国・都の平均正答率を上回りました。図形や数量・図形についての表現・処理、知識・理解が若干、全国・都の平均正答率を下回りました。特に、除数の性質を捉えたり、計算したりする設問、単位量あたりの大きさの求め方を問う設問では、都の正答率を大きく下回っています。

5年生の学力調査では、A・B共に都の平均正答率を大きく上回りました。しかし、Aの「知識・理解」において、下回りました。

<考察・改善>

大きい数、小数・整数の四則演算、単位量あたりの大きさの求め方が十分身に付いていないので、授業の導入や関連する授業において復習する時間を設けます。また、問題を読み取ったり、既習事項を生かして解決したりする力を付けるために、解き方について言葉や図、式などを用いてノートに書いたり、説明したりする指導を続けていきます。

理科

<分析>

5年生の学力調査ではA・Bともに、都の平均正答率を10%以上上回りました。学習内容をよく身に付けていると評価できます。しかし、「磁石の性質」、「電気のはたらき」における「自然自称についての知識・理解」の設問では、半数以上の児童の不正解が見られました。両設問とも、いろいろな素材でできたものを活用する実験での誤答でした。

<考察・改善>

自然の事物・現象の差異点や共通点に気付いたり、比較したりする能力、変化とその要因とを関係付ける能力を育成することが十分ではありません。そこで、観察・実験における実験中の条件を考えたり、整理したりできるように細かく確認しながら指導していきます。また、高学年における観察・実験などを計画的に行っていく条件制御の能力、規則性と関係を推論する能力を養っていきます。予想や実験計画をノートにまとめ、記録やデータを整理することを通して、考察をする時間を充実させていきます。

社会

<分析>

5年生の学力調査では、A・Bともに都の平均正答率を上回りました。特にBは全領域とも大きく上回りました。学習内容を身に付けていると評価できます。正答率の低かった問題は、「消防士の仕事」(正答率約35%)、「道具のうつりかわり」(正答率

約48%)でした。

<考察・改善>

3・4年生で学習する「人々の安全を守るための関係機関の働き」と「人々の生活の変化」についてしっかりと学習内容を理解させます。また、社会科のみならず、総合的な学習の時間における地域の人々との交流を介して、地域の人々の工夫や努力、生活の今昔の違いと変化、受け継いだ文化等を具体的に考えることができるような学習機会を設けていきます。

3 6年生、5年生の家庭学習に関わる意識調査結果から

(1) 6年生の意識調査から

テレビ、DVD等の視聴時間について(平日)

1日あたり4時間以上視聴している児童は約11%、3時間以上4時間未は約23%、2時間以上3時間未満は約18%、1時間以上2時間未満は29.5%となっています。全国・都平均結果とほぼ変わりません。

平日に専用機器、携帯電話、スマートフォン等でゲームをする時間

4時間以上ゲームをする児童は約5%、3時間以上4時間未満は約2%、2時間以上3時間未満は約7%、1時間以上2時間未満は約41%、1時間未満は25%、全くゲームをしない児童は約21%でした。全国・都平均結果よりもゲームをする児童が若干少ない傾向にあるようです。

平日に携帯電話、スマートフォンでの通話、メール、インターネット接続時間2時間以上使用する児童は約2%、1時間以上2時間未満は約11%、30分以上1時間未満は約5%、30分未満は約39%でした。全国・都と比べ、所持している割合が非常に低く、長時間接続し、使用する児童は少ないことが分かりました。

平日の塾を含んだ家庭学習時間

1日あたり3時間以上家庭学習に取り組む児童は約18%、2時間以上3時間未満は約16%、1時間以上2時間未満は約32%、30分以上1時間未満は約18%、30分未満は約14%、全くしない児童は約2%でした。児童の多くが1時間以上は学習している一方、30分より学習時間が少ない児童は全国・都と比べ、5%程多くなっています。

宿題、授業の予習・復習

宿題をしている児童は75%、どちらかと言えば宿題をしている児童は約21%、あまり宿題をしていない児童は約5%、全く宿題をしていない児童は0%でした。宿題をしている児童は全国・都と比べると約10%下回っていました。

予習をしている児童は約14%、どちらかといえば予習をしている児童は約18%、あまり予習をしていない児童は50%、全く予習をしていない児童は約18%いました。学校の授業の予習に取り組む児童は、全国・都と比べると約10%下回り、少ない傾向にあります。

復習をしている児童は約9%、どちらかといえば復習をしている児童は約34%、あまり復習をしていない児童は約46%、全く復習をしていない児童は約11%いました。学校の授業の復習に取り組む児童は、都と比べると約4%、全国と比べると約12%下回っています。

(2) 5年生の意識調査から

学校以外で学習する時間

1日あたり2時間以上家庭学習に取り組む児童は約7%、1時間以上2時間未満は約10%、30分以上1時間未満は約42%、30分未満は約39%、全くしない児童は約3%でした。

塾を含んだ家庭学習時間

半数以上の児童が塾等で学習しており、3時間以上学習する児童は29%、2時間以上3時間未満学習する児童は約10%、1時間以上2時間未満学習する児童は約13%、1時間未満学習する児童は約10%いました。

(3) 考察・改善

6年生、5年生の家庭学習に関わる意識調査結果から、電子機器等の使用は全国・都の平均よりも少ないことが分かりました。その一方で、両学年の家庭学習時間が全国・都の平均と比較すると非常に少なく、家庭学習に取り組む児童と取り組まない児童の二極差も大きいです。6年生において、宿題に取り組んでいる児童が4分の3程度、約4分の1の児童が宿題に取り組んでいないということは、確かな学力を身に付けることができるとはいえません。

家庭学習は、学年×10分が理想です。宿題と復習に取り組むことは、授業で学習したことの理解を深め、定着するためには必要不可欠です。また、定着させるにはドリルの反復練習も必要です。

家庭学習が十分でない児童に対し、家庭学習の時間を確保するよう指導し、家庭学習と取り組むことができる学習内容を提案します。児童同士の家庭学習ノートを紹介し合い、担任が継続して添削するように努めます。

ご家庭でも是非、お子様と宿題の取り組み方、家庭学習の時間や内容について話し合っていたきたいと思います。

学力調査結果分析を基に、「平成28年度 学力向上を図るための全体計画」を授業改善推進プランとして、ホームページに掲載いたしましたので、ご覧ください。